

### Ⅲ 土 壤 図

#### 〔土 壤 概 説〕

#### 1 山地，丘陵地域の土壌（林地土壌）

本図幅は広島県の東南部に位置し、尾道市，三原市等，瀬戸内海に面した本土側と向島，因島，生口島等瀬戸内海に浮かぶ大小の島々から成る。

この図幅に出現した林地土壌は未熟土，褐色森林土（赤黄褐色系），赤色土である。これらの土壌の分布をみると，(1)瀬戸内沿岸部及び島しょ部の花崗岩地域では未熟土の分布が広いこと，(2)標高300～600 mの開析の進行していない丘陵地や山頂平坦面，特に尾道市木ノ庄町の古生層山地や久井町の花崗岩丘陵地では，赤褐色系の褐色森林土及び赤色土が分布していること，(3)(2)以外の褐色森林土地帯では，すべて黄褐色系の褐色森林土が分布すること，などの傾向が見られる。

調査の結果，地質，母材，堆積様式，土色，断面形態等の相違により，表-13に示すとおり7土壌統群20土壌統に分類した。

表-13 山地，丘陵地の土壌分類表

土 壌 群	土 壌 亜 群	土 壌 統 群	土 壌 統	記 号	地 質・母 材	地 形	
—	—	岩 石 地	槌 山 統	Tuc	—	山 地	
未 熟 土	残 積 性	粗粒残積性	呉 娑々 字 1 統	Gsa-1	花 崗 岩 類	〃	
		未 熟 土 壌	呉 娑々 字 2 統	Gsa-2	〃	〃	
	未 熟 土	残 積 性 未 熟 土 壌		栗 谷 1 統	Kri-1	花 崗 岩 類	山 麓 緩 斜 地
				三 原 1 統	Mih-1	流 紋 岩	山 地
				志 和 統	Swa	〃	山 麓 緩 斜 地
				瀬 戸 田 統	Set	古 生 層 粘 板 岩	山 地
褐 色 森 林 土	乾 性 褐 色 森 林 土 森 林 土	乾 性 褐 色 森 林 土 壌 ( 黄 褐 系 )	石 内 1 統	Isi-1	花 崗 岩 類	〃	
			原 山 1 統	Har-1	流 紋 岩 類	〃	
			宇 根 山 1 統	Une-1	古 生 層 粘 板 岩	〃	
			敷 地 1 統	Sik-1	第 4 紀 層	丘 陵 地	

褐色 森林土	乾性褐色 森林土	乾性褐色 森林土壌 (赤褐色系)	世羅1統 Ser-1	花崗岩類	丘陵地
			双三1統 Fut-1	流紋岩類	丘陵地及び 山頂平坦面
			豊栄1統 Toy-1	古生層粘板岩	〃
			尾道統 Ono	第4紀層	丘陵地
	褐色 森林土	褐色森林 土壌 (黄褐色系)	石内2統 Isi-2	花崗岩類	山地
			原山2統 Har-2	流紋岩類	〃
			三原2統 Mih-2	〃	〃
			宇根山3統 Une-3	古生層粘板岩	〃
赤黄色土	赤色土	赤色土壌	岡田山統 Oka	-	丘陵地及び 山頂平坦面

## 2 台地，低地地域の土壌（農地土壌）

この図幅内の土壌は沿岸内陸部は流紋岩，古生層及び洪積世堆積物に由来する強粘質，沿岸，島しょ部の花崗岩に由来する壤質及び礫層土壌に大別される。そのほか，島しょ部には古生層も分布することから，農地面積の割合に対して出現する土壌の種類や分布状況は複雑である。

分布する土壌の種類は8土壌群，23土壌統群，44土壌統である。

表—14 台地，低地地域の土壌分類表

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
褐色森林土	細粒褐色森林土	古作統 田浦統 貝原統 上統
	中粗粒褐色森林土	裏谷統 東谷統
	礫質褐色森林土	石浜統 五社統 千原統

灰色台地土	細粒灰色台地土	小 向 統 喜 久 田 統 早 稲 原 統
	中粗粒灰色台地土	長 笹 統
グライ台地土	細粒グライ台地土	吉 井 統
	中粗粒グライ台地土	太 田 統
黄 色 土	細粒黄色土, 残積性	赤 山 統 八 久 保 統 鶴 木 山 統
	細粒黄色土, 洪積世堆積	矢 田 統
	細粒黄色土, 斑紋あり	蓼 沼 統 北 多 久 統 新 野 統
	中粗粒黄色土, 斑紋あり	都 志 見 統
褐色低地土	中粗粒褐色低地土, 造成相	
灰色低地土	細粒灰色低地土, 灰色系	東 和 統 藤 代 統 宝 田 統
	細粒灰色低地土, 灰褐色系	緒 方 統 金 田 統
	中粗粒灰色低地土, 灰色系	加 茂 統 清 武 統
	中粗粒灰色低地土, 灰褐色系	安 来 統 善 通 寺 統
	礫質灰色低地土, 灰色系	久 世 田 統 追 子 野 木 統 国 領 統
	中粗粒灰色低地土, 造成相	
グ ラ イ 土	細粒強グライ土	富 曾 亀 統 西 山 統 東 浦 統
	中粗粒強グライ土	芝 井 統 琴 浜 統
	細粒グライ土	千 年 統
	中粗粒グライ土	新 山 統

なお、本図幅より、花崗岩風化土壌に由来する粗粒質土壌について、土壌分類を以下のように統一することとした。（広島農試報告，1980）

表一15 花崗岩粗粒質土壌の土壌分類（案）

土 壌 群	土 壌 統 群	土 壌 統	母 材 堆積様式	土 壌 断 面 形 態
褐色森林土	中粗粒褐色森林土	裏谷統	固結火成岩 残 積	腐植層なし 壤～砂質
		東谷統	固結火成岩 崩 積	礫層なし 斑紋結核なし
	礫質褐色森林土	五社統	固結火成岩 残 積	腐植層なし 壤～砂質
		杉谷統	固結火成岩 崩 積	30～60cm以内より礫層 斑紋結核なし
		千原統	固結火成岩 残 積 崩 積	腐植層なし 壤～砂質 (礫 30cm以内より礫層 斑紋結核なし)

礫層は砂礫層，岩盤，盤層を含む。

## 〔土 壤 細 説 〕

### 1 山地、丘陵地域の土壌（林地土壌）

#### (1) 岩 石 地

##### ○ 槌 山 統 (Tuc)

露岩が地域の50%以上を占める山地の部分である。三原市内の花崗岩地帯や流紋岩地帯の急斜面、及び因島市の白滝山等にごく小面積で点在する。経済的利用は出来ず、現植生を極力、保護する必要がある。

#### (2) 残積性未熟土

##### ア 粗粒残積性未熟土壌

###### ○ 呉娑々宇1統 (Gsa-1)

花崗岩を基岩とした山地の尾根から中腹にかけて広く分布する。主として三原市沼田東町、尾道市南部、島しょ部に出現する。

強度の表面侵食を受けているため、土層は浅い。粗粒質な土壌で層位の発達は見られない。A<sub>0</sub>層の欠如も目立つ。ところによっては、上部にM層（菌糸網層）が現われることもある。アカマツが生育しているが、生長は悪くせき悪林化している。

###### ○ 呉娑々宇2統 (Gsa-2)

呉娑々宇1統と同一地域の谷間に出現する崩積性の未熟土である。

斜面上方で侵食された土砂が崩落、堆積したもので、土層は深く、軟らかい。土壌構造は発達せず、また層位の分化も認められないのが普通であるが、ところによっては上部に腐植の浸透した薄いA層が認められ、いわゆるA-C型の断面形態を呈することもある。粗粒質であるが地形的に水分条件が良好で、土層も深いため、アカマツの生育が良好なことが多い。

##### イ 残積性未熟土壌

###### ○ 栗谷1統 (Kri-1)

花崗岩を基岩とした地域の山麓緩斜面に分布する未熟土である。三原市八幡町、尾道市木ノ庄町等にごく小面積、出現する。

全般に土壌構造や層位の分化は未発達であるが、ところによりA-C型の断面形態を呈することもある。土性は砂質壤土のことが多い。アカマツが生育しているが、その生長は良好である。

###### ○ 三原1統 (Mih-1)

流紋岩を基岩とした地域において、尾根部の急傾斜地に分布する未熟

土である。三原市の大峰（貴羽山）、竜王山山塊の尾根部に比較的広く出現する。

強度の表面侵食を受けており土層は浅い。細粒状構造を有するA層を伴うこともあるが、A層の欠如しているところも多い。呉娑々字1統と類似するが土性が砂質壤土であることが異なる。アカマツが生育しているがその生長は悪い。

#### ○志和統(Swa)

流紋岩を基岩とした地域において、原山統に連なる山麓緩斜面に分布する未熟土である。御調町丸門田、尾道市木ノ庄町の竜泉寺ダム近辺にごく小面積出現する。

土壌構造や層位の分化は未発達であるが、A-C型の断面形態を呈するところもある。土性は壤土～埴質壤土で、礫を混入していることが多い。前述の栗谷1統と類似するが、土性が粘土質であることが異なる。アカマツが生育しているがその生長は良好である。

#### ○瀬戸田統(Set)

古生層粘板岩を基岩とした山地の尾根部にごく小面積、分布する未熟土である。三原市幸崎町、瀬戸田町等に出現する。

表面侵食を受けているため土層は浅い。細粒状構造をもつA層を伴うところもあるが、A層の欠如も目立つ。埴質な土壌で角礫に富む。アカマツが生育するがその生長は悪い。

### (3) 乾性褐色森林土

#### ア 乾性褐色森林土壌(黄褐色)

##### ○石内1統(Isi-1)

花崗岩を基岩とした山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10 YR)を呈するものである。三原市高坂町、久井町、御調町等に出現する。薄いA層を伴うが、下層への腐植の浸透はほとんどなく、土壌構造も発達していない。全般に砂質の土壌で、土層も浅く、未熟性が強い。アカマツが生育するが、その生長は悪い。

##### ○原山1統(Har-1)

流紋岩を基岩とした山地の尾根から中腹にかけて広く分布する乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10 YR)を呈するものである。三原市北部の大峰（貴羽山）、竜王山山塊等に広く出現する。

粒状構造ないし構造のはっきりしない薄いA層を伴うが、腐植の下層への浸透は不良である。やや埴質な土壌で下層は緊密で礫に富む。アカ

マツが生育するが、その生長は普通である。

○宇根山1統 (Une-1)

古生層粘板岩を基岩とした山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10 YR)を呈するものである。この図幅においては、古生層地域の代表的土壌である。A層は薄く、A層とB層が不明瞭でA-B層となっているところも多い。埴質な土壌で角礫に富む。下層は堅密で腐植の下層への浸透は悪い。アカマツの生育は良好である。島しょ部の一部では広葉樹林となっているところもある。

○敷地1統 (Sik-1)

第4紀堆積物を母材とした丘陵地に分布する乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10 YR)を呈するものである。久井町土取近辺に多く分布する。やや埴質な土壌で、円礫を含むのが特徴である。ところによっては炭砂を含むこともあるし、また、下層が砂と粘土の互層になっているところもある。アカマツ林となっているが、その生長はやや悪い。

イ 乾性褐色森林土壌(赤褐色系)

○世羅1統 (Ser-1)

花崗岩を基岩とした山地において、標高300~400mの開析の進行していない丘陵地に分布する乾性褐色森林土で、土色が赤褐色(5 YR)を呈するものである。図幅北西部の久井町一帯に出現する。

通常、細粒状構造~粒状構造をもった薄いA層を伴うが、構造のはっきりしないこともある。土性は砂壤土~壤土で、下層は堅密である。腐植の下層への浸透は不良である。アカマツが生育するが、その生長はやや悪い。

○双三1統 (Fut-1)

流紋岩を基岩とした山地において、標高300~600mの開析の進行していない山頂平坦面等に分布する乾性褐色森林土で、土色が赤褐色(5 YR)を呈するものである。尾道市木ノ庄町の竜王山山塊の一部に出現する。A層は薄く、A-B層となっているところも多い。やや埴質な土壌で礫を含む。下層は堅密である。アカマツが生育するが、その生長はやや劣る。

○豊栄1統 (Toy-1)

古生層粘板岩を基岩とした地域において、開析の進行していない丘陵地や山頂平坦面に分布する乾性褐色森林土で、土色が赤褐色(5 YR)を呈するものである。尾道市木ノ庄町に多く出現する。

埴質な土壌で角礫に富む。土層はやや深く、B層に塊状構造をみる。下層は堅密である。アカマツが生育するが、その生長は良好な部類に入る。

#### ○尾道統(Ono)

第4紀堆積物を母材とした丘陵地に分布する乾性褐色森林土で、土色が赤褐色(5 YR)を呈するものである。久井町土取近辺にごく小面積出現する。

円礫を含むことが普通であるが、半角礫や角礫、腐れ礫を混入することも多い。土層は比較的深いが埴質な土壌で、下層はかなり堅密である。アカマツ林となっているが、その生長はやや悪いところが多い。

### (4) 褐色森林土

#### ア 褐色森林土壌(黄褐色)

##### ○石内2統(Isi-2)

花崗岩を基岩とした地域において、石内1統と同一地域の谷部に分布する褐色森林土で、土色が黄褐色(10 YR)を呈するものである。

粒状～団粒状構造の発達したA層を伴うが、全般に砂質でIm的傾向がある。土層は深い。アカマツ林となっているが、その生長は良好で、部分的にはヒノキの造林も可能である。

##### ○原山2統(Har-2)

流紋岩を基岩とした原山1統と同一地域の谷部に分布する褐色森林土で、土色が黄褐色(10 YR)を呈するものである。三原市の大峰(貴羽山)、竜王山山塊の谷間の一部に出現する。

粒状～団粒状構造の発達したA層を有する。やや埴質な土壌であるが、石礫に富み、下層への腐植の浸透も良好である。アカマツ林又はヒノキ林となっているが、双方とも生長は良好である。

##### ○三原2統(Mih-2)

原山2統同様、流紋岩地域の谷部に分布する褐色森林土で、土色が黄褐色(10 YR)を呈するものである。

A層は粒状構造を有することもあるが、全般に不明瞭で、また、A層、B層の境界もはっきりしないことも多い。やや埴質な土壌で礫を含むが、腐植の下層への浸透は不良である。Im的傾向が強く、森林土壌型のB<sub>D</sub>(d)-Im, B<sub>D</sub>-Im型等に相当する。多くはアカマツ林となっているが、一部、ヒノキの造林地もある。アカマツの生長は良好であるが、ヒノキは原山2統よりやや劣るようである。



○宇根山3統(Une-3)

古生層粘板岩を基岩とした山地で、宇根山1統と同一地域の谷部に分布する褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。

粒状～団粒状構造のA層を有する。埴質な土壌であるが、角礫に富み、下層への腐植の浸透も良好である。ヒノキの造林適地である。

(5) 赤色土

ア 赤色土壌

○岡田山統(Oka)

標高300m前後の未開析の丘陵地や山頂平坦面に分布する赤色土で、土色が赤色(2.5YR)を呈するものである。尾道市木ノ庄町木梨山方、久井町羽倉等に小面積つつ出現する。

古い時代に生成されたものが、平坦な地形において、現在まで侵食されずに残存しているものと考えられる。粘質な土壌で堅密である。アカマツが生育するが、その生長は悪い。

なお、各土壌統の代表地点及び断面柱状図は「土壌図」に記載してある。

広島県立林業試験場 兵 藤 博

吉 田 文 則

## 2 台地、低地地域の土壌（農地土壌）

### (1) 岩屑土

この土壌は山地、丘陵地の傾斜面に分布するもので、土層は浅く、30cm以内から下が礫層となり、さらにその下部は岩盤に移行する。礫層上の土性は強粘質から壤質までにわたっている。

堆積様式は残積であり、母材は固結堆積岩および固結火成岩が多い。本県の沿岸、島しょ部に散在する。

#### ア 古作統 (Ksk)

主として固結堆積岩（粘板岩）、固結火成岩（花崗岩）に由来する残積性土壌で0～30cm以内より礫層となり、さらに下部は岩盤に移行する。礫層上部の土性は強粘質～壤質である。表層腐植層はない。下層の反応は弱酸性で次の田浦統と区別される。

傾斜地にあって侵食を受けやすく、層位の発達は不完全である。

本図幅の島しょ部、因島市、瀬戸田町に分布する。

#### イ 田浦統 (Tur)

前述の古作統とは次層の反応が強酸性であることで区別される。

本図幅の島しょ部に点在する。

### (2) 褐色森林土

本土壌は暗褐色の表層をもち、その下に黄褐色の次表層がある。母材は固結火成岩（花崗岩）、固結堆積岩（粘板岩）などで、堆積様式は残積、崩積である。分布する地形は山麓および丘陵地の傾斜面、台地上の平坦地である。次表層の土性、礫層の有無および位置、反応などで3土壌統群、23土壌統に細分されるが、本図幅では3土壌統群7土壌統が分布する。

#### ア 細粒褐色森林土

##### ○貝原統 (Kib)

主として固結堆積岩に由来する残積性土壌で、次表層の土性は強粘質である。表層腐植層はもたないが、作土は暗褐色を示し、次表層は黄褐色である。未風化小角礫を含む場合がある。一般に生産力は高い。本図幅内の三原市深町、尾道市畑に分布する。普通畑として利用されているが、一部には樹園地もみられる。

##### ○上統 (Kmi)

主として、固結堆積岩に由来する残積土壌で、一部に固結火成岩もみられる。次表層の土性が粘質で、強粘質の貝原統、壤質の裏谷統と区別さ

れる。表層腐植層はもたないが作土は暗褐色または褐色で、次表層は黄褐色である。礫層はもたないが下層は礫を含む～富む場合がある。また、次表層の土性は弱酸性である。普通畑、樹園地として利用されている。

本図幅の島しょ部、瀬戸田町、三原市須波西町周辺に分布する。

## イ 中粗粒褐色森林土

### ○裏谷統(Urt)

主として固結火成岩(花崗岩)に由来する残積性土壌で次表層の土性は壤質である。表層腐植層はもたないが、作土は暗褐色または褐色を呈し、次表層は黄褐色を呈する。しかし、花崗岩に由来する粗粒質土壌には次表層の土色が黄色と黄褐色を区分する境界に近い土色を示すものが多い。これらは土色を除いて断面形態上にほとんど差がみられない。このことは、花崗岩に由来する粗粒質土壌が元来、土層の分化が貧弱で、粘土含量に乏しい上、一次鉱物や未風化礫を多く含むことから、未熟土壌として取扱うべき性格のものといえる。しかし、本土壌分類が農技研化学部より提案された「第2次案」に拠る以上は、この未熟土壌に該当するものがなく、次表層の土色が黄褐色の場合は中粗粒褐色森林土に、黄色の場合は中粗粒黄色土に分類せざるをえない。このため、本来同一土壌とみなされるものがまったく異なる土壌に分類されることになり、客観性に乏しいものとなる。この問題は花崗岩に由来する礫質土壌にも同様である。このことから、筆者らは本県に分布する花崗岩に由来する粗粒質土壌及び礫質土壌は褐色森林土内に包括分類することとした。

(1980, 広島農試報告, 第42号)。このため、従来、中粗粒黄色土、大代統に分類されていた土壌も、この裏谷統に包括分類されることになる。

本土壌の土地利用は普通畑、樹園地であり、本県の沿岸、島しょ部にきわめて広く分布する代表的な土壌である。本図幅の沿岸、島しょ部に広く分布する。

### ○東谷統(Hdn)

主として固結火成岩(花崗岩)に由来する崩積性土壌である。山麓下部に帯状に分布する。表層腐植層はもたないが、表層は暗褐色または褐色を呈し、次表層は黄褐色(黄色の場合もある)である。土性は壤質でときに砂質の場合もある。礫層はもたないが、未風化細小角礫を含む～富む場合が多い。花崗岩に由来する粗粒質土壌では、土色の如何を問わず、本土壌統に包括分類することとする。(裏谷統を参照)

主として、普通畑であるが一部樹園地として利用されている。

本図幅の島しょ部、向島町岩子島、三原市鷺浦町、瀬戸田町高根などに分布する。

#### ウ 礫質褐色森林土

##### ○石浜統(Ihm)

主として固結堆積岩に由来するもののほか、一部に固結火成岩に由来する残積性土壌である。表層腐植層はもたないが、表層は暗褐色ないし褐色を呈し、次表層は黄褐色である。

土層の30～60cm以内より下部礫層となり、礫層および礫層上部の土性は強粘質～粘質である。山腹、山麓傾斜面に広く分布する。主として樹園地として利用されている。本図幅の沿岸、島しょ部に広く分布する。

##### ○五社統(Gsh)

主として固結火成岩(花崗岩)に由来する残積性土壌である。表層は暗褐色ないし褐色で次表層は黄褐色である。一部に黄色を呈するものも、花崗岩に由来する土壌であれば五社統に含める(裏谷統と同様な考え方による)。土層の30～60cm以下より礫層となり岩盤へ移行する。礫層及び礫層上部の土性は壤質ないし砂質である。

主として樹園地として利用されており、本県の島しょ部、沿岸部に広く分布がみられる。

本図幅の因島市、三原市鷺浦町にみられる。

##### ○千原統(Chh)

主として固結火成岩(花崗岩)に由来する残積性土壌であるが、一部に崩積性土壌も含まれる。表層腐植層はもたないが作土は暗褐色ないし褐色を呈し、次表層は黄褐色である。ただし、花崗岩に由来する場合には黄色を呈しても千原統に含める。土層0～30cm以内より下部礫層となり、そのまま岩盤へ移行する。礫層が浅く、岩盤が上部に出現するものは岩屑土に含める。また、本統は礫層および礫層上部の土性が壤質～砂質であり、強粘質～粘質の場合も岩屑土に含めることとする。本県の沿岸、島しょ部に広く分布する。主として樹園地として利用されている。本図幅の島しょ部、向島町、因島市に広く分布する。

### (3) 灰色台地土

本土壌は主として台地、丘陵地及びその傾斜面に分布し、全層またはほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土層からなる。一般に土層中に斑紋の存在する土壌である。母材は一定しないが堆積様式は残積、崩積及び洪積

世堆積である。花崗岩に由来する粗粒質土壌では長い間の水田利用の結果として灰白化が進行したのもみられる。

#### ア 細粒灰色台地土

##### ○小 向 統 (Kmk)

主として固結堆積岩，非固結堆積岩に由来する残積性土壌である。表層腐植層はもたないが，作土の腐植含量は含む程度である。ほぼ全層が灰～灰褐色を呈し，主要土層の土性は強粘質である。膜状，糸根状斑をもつがマンガン結核はみられない。グライ層，礫層をもたない。主として水田として利用されている。本図幅では福山市本郷町にみられる。

##### ○喜久田統 (Kik)

この土壌は主要土層の土性が粘質で，上述の小向統（強粘質）と区別される。本図幅の東北部に散在する。

##### ○早稲原統 (Wsh)

この土壌は断面内に斑紋のほか，マンガン結核をもつことで上述の喜久田統と，主要土層の土性が粘質なことで小向統（強粘質）と区別される。本図幅のほぼ中央部に点在する。

#### イ 中粗粒灰色台地土

##### ○長 笹 統 (Ngz)

この土壌は固結火成岩（花崗岩）に由来する残積性土壌で，上記の細粒灰色台地土と母材がかなり異なる土壌である。主要土層の土性は壤質で透水性が大きく養分の流亡も著しい。長い期間にわたって水田として利用された結果として，灰白化が進行した土壌であり，土色が黄褐色を呈する都志見統（中粗粒黄色土，斑紋あり）に類似する。礫層はもたないが，細小礫に富む場合もある。断面中に糸根状斑を有する。

本県の花崗岩地帯に分布する代表的な土壌の一つといえる。本図幅の北部に散在する。

#### (4) グライ台地土

この土壌群は前述の灰色台地土に母材，堆積様式は類似するが，高地下水水位，湧水及び宙水などの存在によりグライ層をもつ土壌である。

#### ア 細粒グライ台地土

##### ○吉 井 統 (Yos)

この土壌は主として固結堆積岩，非固結堆積に由来する残積性，洪積世堆積土壌である。全層またはほぼ全層がグライ層から強グライ土壌である。主要土層の土性は強粘質で構造の発達は弱い。作土には膜状斑，

次層には膜状、糸根状斑を、また下層に管状斑を有するものが多い。本図幅の西北部に分布する。

#### イ 中粗粒グライ台地土

##### ○太田統 (Ota)

この土壌は固結火成岩（花崗岩）に由来する残積性土壌で山麓、丘陵下部の斜面部に分布する。土層の 50 cm 内外より下部グライ層となる。主要土層の土性は壤質で、グライ層の有無の違いで中粗粒灰色台地土の長笹統と区別される。

本図幅内の北部に分布がみられる。

#### (5) 黄色土

この土壌群は丘陵、台地及びその斜面部に分布する残積性、洪積世堆積性土壌であり、母材は広範に及ぶ。この土壌の土地利用は多岐にわたり、水田利用の場合には土層中に斑紋結核を有する。

#### ア 細粒黄色土（残積性）

##### ○赤山統 (Aky)

この土壌は固結火成岩、固結堆積岩に由来する残積性土壌である。作土を除くほぼ全層が黄色を呈し、土性が強粘質である。主要土層の反応が強酸性を呈する。礫層はもたないが下層に巨礫を有するものもみられる。構造の発達が弱く、物理性は不良である。主として畑、樹園地として利用されている。本図幅の北部に分布する。

##### ○八久保統 (Hkb)

この土壌は主要土層の土性が粘質であり、また、主要土層の反応が弱酸性を呈することで上述の赤山統と区別される。本図幅の南部、向島町、因島市に分布がみられるが、これらの母材は固結火成岩（花崗岩）に限定される。

##### ○鶴木山統 (Tug)

この土壌は主要土層の土性が粘質であり、上述の赤山統と区別される。また、八久保統とは主要土層の反応の違いで区別され、本統では強酸性を呈する。本図幅の東南部に分布がみられ、主として樹園地として利用されている。

#### イ 細粒黄色土（洪積世堆積）

主として非固結堆積岩に由来する洪積世堆積性土壌である。主要土層の土色は黄色を呈し、土性は強粘質である。また、下層土の物理性が不良である。反応も強酸性を呈する。一般に礫層はもたない。樹園地のほ

かに普通畑として利用されている。本図幅の東部，西部に点在する。

#### ウ 細粒黄色土，斑紋あり

##### ○ 蓼沼統 (Tdn)

この土壌は水田土壌の結果として土層中に斑紋を有するに至った土壌であり，その他は前述の赤山統に類似する。主要土層の土色は黄色ないし黄褐色で，土性は強粘質である。表層腐植層，礫層はもたない。本図幅の北部にわずかに分布する程度である。

##### ○ 北多久統 (Kit)

この土壌は前述の蓼沼統に類似するが，土層中にマンガン結核をもつこと（構造の発達も幾分かは認められる）で区別される。本図幅の西北部にわずかに分布する程度である。

##### ○ 新野統 (Art)

この土壌は主要土層の土性が粘質で強粘質の北多久統と区別される。本図幅の西北部に分布する。

#### エ 中粗粒黄色土，斑紋あり

##### ○ 都志見統 (Tsm)

この土壌は固結火成岩（花崗岩）を母材とする残積性土壌で，母材，堆積様式は限定されるといえる。主要土層の土色は黄色ないし黄褐色を呈し，灰色（灰褐色）を呈する長笹統（中粗粒灰色台地土）と区別される。土性は壤質である。礫層はもたないが未風化細小角礫に富むものもみられる。水田利用の結果として，土層中に斑紋をもつに至った土壌である。本県の中南部に広く分布する土壌であるが，本図幅では北部にわずかに分布する程度である。

#### (6) 褐色低地土

この土壌群は沖積低地に分布するもののうち，主要土層の土色が黄色ないし黄褐色を呈するもので，比較的地下水位の低い部位に分布する。地下水位の変動や水田利用の結果として，土層中に斑紋，結核を有するに至った土壌である。畑利用をも含めて本県における分布はきわめて点的である。本図幅には図化されていない海岸沖積地に分布がみられるが雑用地となっているものが多い。島しょ部の水田地帯にマサ土の客土をされて，畑利用されている土壌を造成相として含めることとした。

#### ア 中粗粒褐色低地土，造成相

この土壌は水田に花崗岩風化土壌を客土したものである。土色は黄褐色，土性は壤質であり，斑紋，結核はない。普通畑として利用されてい

る。

## (7) 灰色低地土

この土壌群は沖積低地に分布し、全層及びほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土壌であるが、一部には下層に腐植質火山灰層、泥炭層、黒泥層などが埋没したものも含まれる。本県の水田土壌の50%以上を示す主要な土壌である。母材は非固結堆積岩、堆積様式は水積である。地下水位の変動、かんがい水の影響などにより断面に斑紋、結核を有する場合が多い。ごく一部には普通畑としても利用されている（通常、斑紋結核をもたない）が、ほとんどが水田として利用されている。

土色、土性、斑紋結核、砂礫層、埋没土層の種類及び有無などのちがいにより多くの土壌統群、土壌統に細区分される。

### ア 細粒灰色低地土、灰色系

#### ○東和統(Tow)

この土壌は非固結堆積岩に由来する水積性土壌である。主要土層の土色は灰色で、土性は強粘質である。表層腐植層はない、礫層をもたない。一般に構造の発達は弱く、土層中に斑紋はあるが、マンガン結核をもたない。

本図幅における分布面積は小さく、東北部、西北部に点在する程度である。

#### ○藤代統(Fjs)

この土壌は主要土層の土性が粘質であり、強粘質の東和統と区別される。本図幅における分布状況は広く、東北部、西北部に認められる。

#### ○宝田統(Tkr)

この土壌は前述の藤代統に類似するが、柱状構造が発達していること、斑紋のほかにマンガン結核をもつことなどで区別される。

本図幅の西部に分布がみられるほか、北部にも点在する。

### イ 細粒灰色低地土、灰褐色系

#### ○緒方統(Ogt)

この土壌は主要土層の土色が灰褐色で、土性が強粘質である。表層腐植層はない、礫層ももたない。構造の発達は中程度で、斑紋のほかにマンガン結核を有する。本図幅の東北部に分布する。

#### ○金田統(Kan)

この土壌は主要土層の土色が灰褐色で、土性は粘質である。土色の違いを除いては前述の藤代統に類似する。本図幅における分布は狭小であ



る。

#### ウ 中粗粒灰色低地土，灰色系

##### ○加茂統 (Km)

この土壌は主要土層の土色が灰色で，土性が壤質である。構造の発達  
は弱く，斑紋は糸根状，糸状，雲状などがみられるが，マンガン結核は  
ない。表層腐植層，礫層はない。本県における主要土壌統である。本図  
幅の沿岸部に広く分布する。

##### ○清武統 (Kyt)

この土壌は前述の加茂統に類似するが，土層中にマンガン結核をもつ  
ことで区別される。本図幅の中央部に分布がみられる。

#### エ 中粗粒灰色低地土，灰褐色系

##### ○安来統 (Ysk)

この土壌は主要土層の土色が灰褐色を呈することで灰色を呈する前述  
の加茂統と区別される。本図幅の北部に点在する程度である。

##### ○善通寺統 (Znt)

この土壌は前述の安来統に類似するが，土層中にマンガン結核をもつ  
ことで区別される。本図幅の東北部にごくわずかに分布する。

#### オ 礫層灰色低地土，灰色系

##### ○久世田統 (Kus)

この土壌は土層 30～60 cm 以内より下部礫層となる土壌で，礫層及び  
礫層上部の土色は灰色で，土性は強粘質である。

本図幅の中央部にみられる程度である。

##### ○追子野木統 (Okk)

この土壌は土層 30～60 cm 以内より下部が礫層となる土壌で，礫層及  
び礫層上部の土性が壤質ないし砂質である点で上述の久世田統と区別  
される。また，礫層の有無で加茂統と区別されるように，本県に広く分  
布する土壌といえる。透水性大きく養分の流亡も大きく，秋落ちとなり  
やすいなど生産力は低い。本図幅の中央部河川沿いに分布する。

##### ○国領統 (Kok)

この土壌は土層 0～30 cm 以内より下部が礫層で，礫層及び礫層上部  
の土色が灰色で，土性は多岐にわたるが，一般に壤質である。礫層の出  
現位置の違いで前述の久世田統，追子野木統と区別される。

本図幅の北東部，中央部などにわずかに分布する。

## カ 中粗粒灰色低地土，造成相

この土壌は沿岸，島しょ部の低地に，花崗岩風化土を客土したもので，主要土層の土色が灰色ないし灰褐色を呈する壤質～砂質土壌をいう。畑利用のために斑紋，結核はみられない。本図幅の東部，島しょ部に点在する。

### (8) グライ土

この土壌群は沖積低地に分布し，(ア)全層若しくはほぼ全層がグライ層からなるか，(イ)次表層がグライ層からなり，泥炭，黒泥又は腐植質火山灰の埋没土層をもつ，(ウ)次表層は灰色の土層からなり，下層はグライ層からなる土壌である。一般に表層腐植層はない。母材は(ア)及び(ウ)が非固結堆積岩，(イ)は表層は非固結堆積岩，下層は植物遺体又は非固結火成岩である。堆積様式は水積（(イ)の一部は集積）である。

#### ア 細粒強グライ土

##### ○富曾電統（Fsk）

この土壌は全層またはほぼ全層がグライ層からなる強グライ土である。主要土層の土性は強粘質で，一般に構造の発達は弱く物理性が不良である。土層の上部 30 cm 以内に膜状，糸根状斑をもつ。表層腐植層，礫層をもたない。沖積低地に分布することで前述の吉井統と区別される。

地下水位が高く，透水性が小さいことから還元化が進み根系障害のおそれが強い。本図幅の西北部にごくわずか分布する。

##### ○西山統（Nsh）

この土壌は主要土層の土性が粘質を呈することで強粘質の富曾電統と区別される。本図幅の東北部，西北部，西南部などに広く分布する。

##### ○東浦統（Hgs）

この土壌は表層 30 cm 以内しか斑紋がみられない西山統と異なり，下層に斑紋のみられる土壌であり，その他は西山統に類似する。この違いは主として，地下水の動態に関するもので，西山統にくらべて東浦統の方が地下水位の変化が大きいと考えられる。

本図幅の西部に分布がみられる。

#### イ 中粗粒強グライ土

##### ○芝井統（Shb）

この土壌は全層またはほぼ全層がグライ層からなる強グライ土壌である。主要土層の土性は壤質で，表層 30 cm 以内に斑紋をもつがそれ以下には斑紋はない。表層腐植層，礫層はない。

本図幅の西南部に分布がみられる。

○琴浜統(Kot)

この土壌は主要土層の土性が砂質であり、前述の加茂統が壤質であることを除いて類似する。本図幅の東北部に分布がみられる。

ウ 細粒グライ土

○千年統(Ch)

この土壌は土層50cm内外より下部がグライ層となるもので、表層の土色は灰色ないし灰褐色で、主要土層の土性は粘質である。作土下の構造の発達は弱く、斑紋はあるがマンガン結核はみられない。本図幅における分布はわずかで、西北部にみられる程度である。

エ 中粗粒グライ土

○新山統(Niy)

この土壌は土層50cm内外より下部がグライ層となるもので、全層あるいはほぼ全層がグライ層となる芝井統とはグライ層の位置で区別される。グライ層上部の土色は灰褐色ないし灰色である。構造の発達は概して弱い。本図幅内の西南部にわずかに分布する。

各土壌統の代表地点及び土壌断面柱状図は「土壌図」に記載した。

広島県立農業試験場 上 本 哲  
中 沢 征三郎

## Ⅳ 水系及び谷密度図

本図幅は、北部の芦田川－御調川水系、西部の沼田川水系に含まれる地域を除いては、比較的小規模な水系によって構成されている。特に本土側の沿岸地域及び島しょ部は流域面積 10 km<sup>2</sup> 以下の水系から成っている。

本図幅のほぼ全域にわたり、構造線に支配されると思われる直線的な谷が認められるが、明瞭なものは少ない。その方向は、北東－南西、南北、北西－南東方向であるが、その他の成分も現われ共役関係はそれ程鮮明ではない。より細かい水系パターンについて述べると、全域にわたって樹枝状もしくは羽毛状の水系が発達する。羽毛状水系の分布は構造線に支配される直線的な河川に多く見られるものの、岩質との対応は認められない。また、生口島の観音山付近などでは放射状パターンも見られる。

水系図より作成した谷密度図について述べる。図－6 は、その頻度分布を示したものである。本図幅では 0～53 までの値が出現するが、25～35 の頻度が高く、またそれ以下の値も減衰することなく、ある一定程度の頻度で現われる。低い値が多いのは沖積低地が広いためだけでなく、海を含めメッシュ（網目）が多いため、その部分を除いて集計した図－6 の斜線部を比較してもそのことがわかる。35 以上の高い値は、本土では北部一帯と尾道周辺に集中するが、沼田川両岸の山地にも現われる。また島しょ部では、向島、因島、生口島などに広く出現し、そこでは 40 以上の値が本土より高い頻度で現われる。海を含むメッシュを除いた資料から平均値を算出すると、全域では 30.2、本土では 28.8、島しょ部では 38.1 となる。

次に、谷密度と岩質との関係について述べる。北東部の摩訶衍山付近、尾道周辺、向島、因島、生口島では花崗岩地域に対応して 40～50 前後の高い値を示すように見える。しかし、その周辺の古生層地域でも同様の値が出現すること、北西部の久井町付近及び沼田川周辺の花崗岩地域では 35～40 程度の値を示すもののそれ程高い値は示さないこと、本土中央部の流紋岩地域は北部と南部とで値が異なることから、岩質差だけでなく、開析のステージの差が谷密度に反映されていると考えられる。一方、山地であっても、団地やゴルフ場などの人工改変地では、流路が判読できないためもあるが、周囲に比べ低い値になっている。

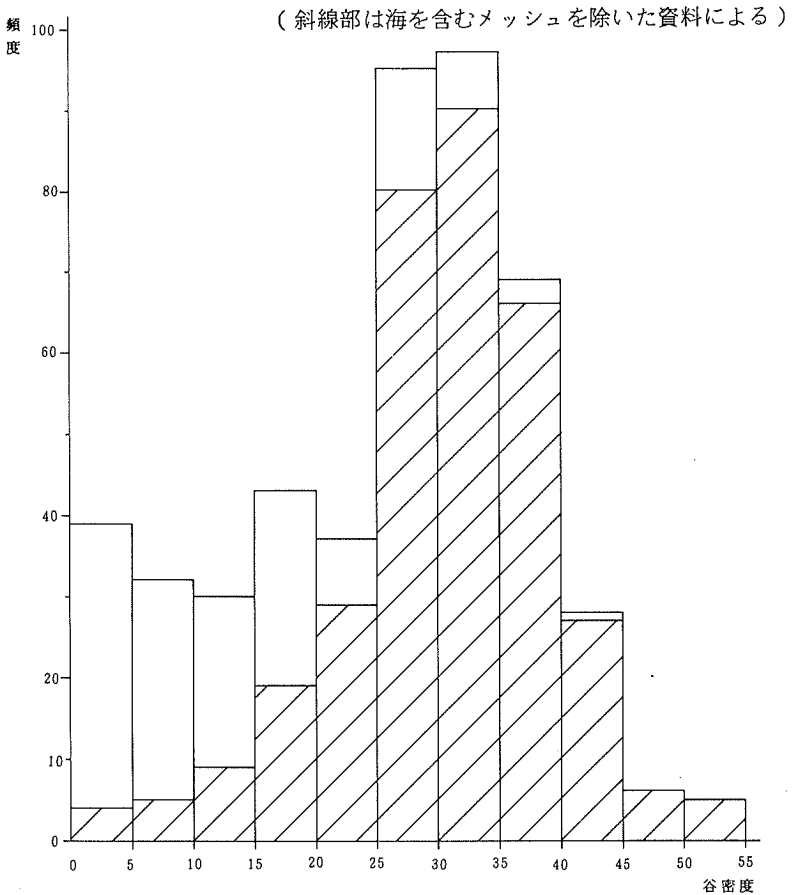
なお、水系図の作成は、2万5千分の1地形図を参考に、5万分の1地形図上で行った。

広島大学文学部 藤原健蔵

広島大学総合科学部 堀 信行

広島大学総合科学部 中井達郎

図一6 谷密度の段階別分布



## V 傾 斜 区 分 図

本図幅は広島県東部に位置し、北は内陸部そして尾道・三原の沿岸部、南は瀬戸内海に浮かぶ向島・因島・生口島などの島しょ部よりなる。

本図幅北部の三原市八幡町付近から沿岸部の同市木原町にかけて、北北西—南南東方向に測線（図-7）を設定し、図-8のような地形断面図を描いた。図上には、測線上各地点の斜面傾斜と地質を表現している。この図は、垂直距離を水平距離の2.5倍のスケールで表わしており、また、測線は必ずしも斜面の最大傾斜方向とは一致しないので、図における傾斜と実際の傾斜とは合致しない。同様に、図-9も生口島における地形断面図である。

本図幅の北西部、久井町付近には、花崗岩類と鮮新世～更新世の砂礫層からなり、標高360～400mの世羅台地と呼ばれる侵食小起伏面が認められる。この地域は、一部で15～20°の斜面がみられるが、3～8°・8～15°の斜面が大部分を占め、谷底平野では0～3°の平坦面が存在する。この世羅台地は、他地域と比較して明らかに傾斜区分図のパターンが異なっており、傾斜の緩やかな丘陵性の地形を示すことがわかる。

三原市街地北方に竜王山（665.1m）を中心とする山塊と、同市東部には鉢ヶ峰（429.7m）を中心とする山塊がある。これらの山塊は、ともに流紋岩によって構成されており、斜面の多くは20～30°・30～40°の傾斜を示している。面積的にはそれほど広くはないが、40°以上の急斜面も認められる。地形断面図のA-A'にも表われているが、流紋岩分布地域の北西縁辺部には、急傾斜（30～40°・40°以上）の部分が連続的に認められる。また、この急斜面の前部には、山麓緩斜面（8～15°）がよく発達している。このような地域では、地質構造が斜面の傾斜に大きく影響していると考えられる。大峰山（610.2m）の南西方、竜王山北東方の山頂付近には、周囲の斜面に比べて明らかに傾斜の緩やかな8～15°・15～20°の斜面が存在し、高位の侵食小起伏面の残遺面であると推測される。この付近では、8～15°・15～20°の山頂緩斜面と20～30°・30～40°の山地斜面との境界付近に崩壊地が多くみられ、この傾斜の遷急線が侵食前線にあたると考えられる。

本図幅の北東部、尾道市街地北方の地域は、花崗岩類・古生層によって構成されており、3～8°・8～15°・15～20°・20～30°などの様々な傾斜の斜面からなっている。流紋岩の山地と比較すると、概して傾斜は緩やかである。藤井川・本郷川など、比較的大きな河川の河谷沿いには、0～3°の谷底平野も

広がっている。尾道市街地背後の山地には、かつて急斜面であった地域が人工的に改変され、周囲の地形とは非調和的な平坦面・緩斜面（ $0\sim 3^{\circ}$ ・ $3\sim 8^{\circ}$ ）が存在する。また、面積的にはわずかであるが、藤井川の支流や本郷川の谷壁斜面の一部には、 $30\sim 40^{\circ}$ ・ $40^{\circ}$ 以上の急斜面がみられる。

三原市街地南方にそびえる筆影山（ $314m$ ）をはじめとする山塊、生口島の観音山（ $472.3m$ ）、因島の奥山（ $390.5m$ ）を中心とする山塊は、古生層により構成されており、流紋岩の山地と同様に、 $20\sim 30^{\circ}$ ・ $30\sim 40^{\circ}$ ・ $40^{\circ}$ 以上の急傾斜をなしている。これらの古生層はCap rockとして花崗岩の上位に位置しており、下位の花崗岩よりなる斜面は、上方の斜面とは明瞭な傾斜変換線で境される典型的な山麓緩斜面（ $8\sim 15^{\circ}$ ）となっている。特にこの地形は、生口島・高根島によく発達している（図-7B-B'）。

さらに、沼田川下流域、尾道市街地の一部、松永湾岸、島しょ部の沿岸には沖積平野、あるいは干拓地・埋立地があり、 $0\sim 3^{\circ}$ の平坦面が見られる。

次に、傾斜と土地利用の関連について述べる。表-16は、尾道・三原の市街地地域と御調町丸門田付近（内陸部）と生口島（島しょ部）の計4地域に分けて、各傾斜における土地利用状況を示したものである。表によると、地域によって各傾斜ごとの土地利用状況が異なっていることがわかる。特に尾道市街地周辺では、特殊な建物も含めると、 $0\sim 3^{\circ}$ の平坦地から、 $30\sim 40^{\circ}$ の急傾斜地にまで住宅地が存在している。それに対し、三原・御調町丸門田では $15\sim 20^{\circ}$ 、生口島では $8\sim 15^{\circ}$ の傾斜地にまでしか住宅地はない。このような傾向は、尾道市臨海部の平地が非常に狭いため当然考えられることであり、より高度な土地利用状況であるとも理解できるが、自然災害に対する危険性もその分だけ増大している。その他の土地利用に関しては表に示すとおりである。

広島大学文学部 藤原健蔵

広島大学総合科学部 堀 信行

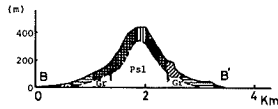
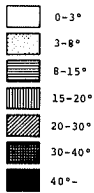
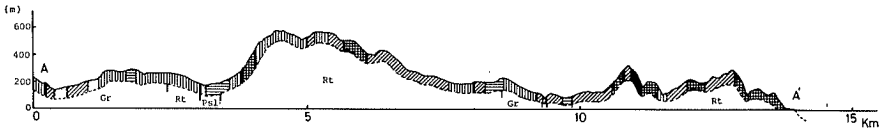
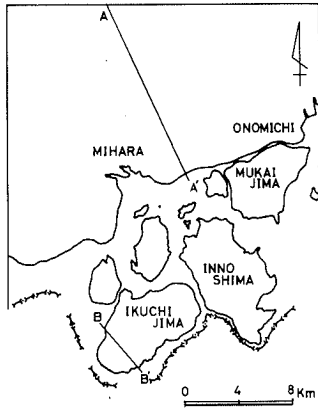
広島大学文学部 牧野一成

表-16 各傾斜における土地利用状況

傾斜区分	尾 道	三 原	御調町丸門田付近	生 口 島
0 ~ 3°	住宅, 商工業地 域, 水田	住宅, 商工業地 域, 水田	水田, 住宅	水田, 住宅
3 ~ 8°	住宅, 水田, 畑 果樹園	住宅, 水田	水田, 住宅, 畑	水田, 住宅 果樹園, 畑
8 ~ 15°	住宅, 水田, 畑 果樹園, 森林	住宅, 畑, 水田	畑, 森林, 住宅	果樹園, 住宅 森林, 畑
15 ~ 20°	果樹園, 畑 住宅	森林, 住宅(ご く一部)	森林, 住宅(ご く一部)	果樹園, 森林
20 ~ 30°	森林, 住宅	森林	森林	森林
30 ~ 40°	森林, 住宅(寺 など特殊な建物)	森林	森林	森林
40°~		森林	森林	森林



図一七 地形断面図



A-A', B-B'は測線位置を示す。Gr:花崗岩類, Rt:流紋岩,  
Ps1:古生層(粘板岩)

## Ⅵ 土地利用現況図

### 1 農地

本図幅内の土地利用上の特徴は位置、地形及び気候条件の違いから、内陸部、沿岸部及び島しょ部の3つに区別される。

内陸部西側の御調郡久井町、御調町は水田の占める割合が高く、そのなかでも久井町は湿田が多く、御調町は乾田が多い。このことは地質、母材の違いからくる地形の違いによるもので、久井町は洪積世堆積物に由来する粘質土壌が、御調町は花崗岩に由来する粗粒質土壌が分布する。

内陸部東側の尾道市木門田、木梨及び西藤町、福山市本郷、東村町は古生層、洪積世堆積物に由来する粘質土壌が多いが、地形が複雑で広大な農地を形成しえない。すなわち、谷間状地形に母材の影響を強く受けた粘質土壌が分布し、大部分は乾田であるが、福山市東村町には湿田が広く分布している。また、この地区には古くからブドウを中心とする樹園地が開けており普通畑も南部消費地への野菜の供給基地として重要な位置を占めている。

沿岸部西側の農地として比較的まとまった地区に、三原市沼田東地区の水田地帯がある。かつて、そのほとんどが湿田であり、圃場整備事業が行われ、それと共に排水事業も実施され乾田化へ向かうものと思われる。この地区を除いては低地は都市化が進み、水田は山間谷間の狭小な地形にのみ残存する傾向がみえはじめている。このほか、畑、樹園地としては三原市須波町、須波西町及び幸崎町に樹園地が広く分布しているが、近年に至り宅地化が進むと共に放棄されるものも多くなっている。樹園地のほとんどは柑橘類が作られている。

沿岸西部では低地の水田はほとんど宅地化され、残っているものも水田としての機能を失ってきている。しかし、三原市木原町、尾道市吉和、高須及び山波町には樹園地が広がり、柑橘類が栽培されている。そのほか、普通畑や緩傾斜の樹園地では、特産のワケギが栽培されている。いずれも、その面積は年々減少しつつある。

島しょ部は向島、因島、佐木島、高根島及び生口島が東北から西南にかけて存在するが、これらの島々の東北から西南にかけて、北端、南端を花崗岩が、中央を古生層（南帯）が走っており、これらの地質、母材の影響を受けた土壌が分布している。

土地利用は大部分が樹園地で柑橘類が栽培されている。花崗岩に由来する

土壌の多くは土性が壤質で下層が礫層になるものが多い。古生層に由来する土壌の多くは土性が強粘質で、角礫に富むものが多い。因島市重井町、三原市鷺浦町（佐木島）には普通畑が分布し、暖地の気候条件をいかした2～3作の集約栽培が行われている。

いずれも、地形は急峻で土地条件の劣悪なことから、放棄される畑地も多く、土壌侵食が進行し、深刻な問題となってきている。

向島町（向島）では昭和45年には土地面積18.56 *km*<sup>2</sup>に対し、農地9.07 *km*<sup>2</sup>と、50%近い農地率を占めていたものが、昭和55年には農地は6.35 *km*<sup>2</sup>と急激な減少をみせている。しかし、未だ県平均農地率が10%未満であることからみても、島しょ部の土地利用はきわめて高いといえる。

しかし、わずかに残っていた水田は、そのほとんどが埋立られて、向島町では作付面積は昭和56年では1 haにも満たない。

前述した様に柑橘類は生産過剰からくる安値や、労働力の減少などにより生産意欲が低下し、土地条件の劣悪な樹園地から放棄されはじめ、放棄とともに土壌侵食が起こるなど農地保全対策が必要とされるなどの問題が生じはじめている。

本図幅の土地利用を水田では乾田、半湿田、湿田に、畑地では普通畑、樹園地に区分して図示したが、現状では市街地の宅地間にとり残された狭小な農地が多く、これらを雑用地として取扱わざるを得なかった。

広島県立農業試験場 上 本 哲  
中 沢 征三郎

## 2 林 地

本図幅は、愛媛県に接する因島市、瀬戸田町などの島しょ部と、三原市、尾道市などの沿岸部のほか、久井町、御調町の一部からなる内陸部と3つの地域に区分される。

この地域の森林は、天然生針葉樹林、なかでもアカマツ林が主体である。次に分布の広い広葉樹林は、その大半が三原市に集中しているが、尾道市、生口島、因島などにも点在している。土地生産力は、気象、土壌等自然条件に恵まれないため全体的に低い。

最近ではマツクイムシの異常発生のため、島しょ部ではアカマツ、クロマツの枯損が目立っており、沿岸部でも次第に拡がりつつある。防除についてはマツ林を保護し被害の拡大を防止するための特別の対策が講じられている。

森林の構成樹種は、人工林ではスギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、肥料木（ニセアカシア、ヤシャブシ等）等である。スギ、ヒノキは尾根筋より相対的に肥沃な谷筋に植栽されているが、生育は良くない。アカマツ、クロマツ、肥料木は大半がせき悪造林等で植栽されたものである。天然林では針葉樹のコナラ、アベマキ、ヤマザクラ、アラカシ、クスノキ、ヤブツバキ等である。コナラ、アベマキ、ヤマザクラ等の落葉広葉樹は山地部に多く見受けられる。アラカシ、クスノキ、ヤブツバキ等の暖帯性の常緑広葉樹はわずかだが海岸部に存在している。

これら森林の有する機能についてみると、木材生産機能とともに最近では公益的機能発揮に対する社会的要請も年々強まっている。特にこの地域は瀬戸内海国立公園、県立自然公園等を擁し、森林の保健休養機能への期待が大きい。よって景観維持に充分配慮した森林管理を行うことが必要である。

また、この地域は林野火災、土砂崩壊等の多発地帯であり、山地災害防止機能への期待も大きい。これら被災地の早期回復を図るためには、保安林改良、治山事業、せき悪造林等を推進することが必要である。

今後の森林の取り扱いについては、上述の保健休養機能、山地災害防止機能とあわせて、水源かん養機能、生活環境保全機能、木材生産機能の充実発揮にも気を配り、バランスのとれた森林の整備が望まれる。

表一17 市町別森林面積構成比

(単位：%)

区分 市町名	人工林	天然林		その他	計
		針葉樹	広葉樹		
三原市	6	56	37	1	100
尾道市	3	74	20	3	100
因島市	4	73	21	2	100
瀬戸田町	2	70	26	2	100
向島町	—	91	6	3	100

資料：県林政課「備南地域森林計画書」(56.4.1)

〃 「芸南地域森林計画書」(57.4.1)

注：記載市町は本図幅を構成する主な市町のみ

1982年10月印刷発行  
都道府県土地分類基本調査

**尾道・土生**

編集発行 広島県企画部企画課  
広島市中区基町10-52  
TEL(082)228-2111

印刷 デルタプリント  
広島市南区大州2丁目12番17号  
TEL(082)281-7338